

あれから・・・

千葉インターハイから5年目

2005年の千葉インターハイは春高陸上部には忘れられない年だった。インターハイへ両りレーで行くことが出来る。やればできるんだ！・・・という事を後輩たちに証明してみせた。全員で頑張れば全国へ行って戦える！そういう教訓を残してくれたのだ。



私はそんな彼らと是非、飲んで話したかった。なぜなら彼らも、もう大学3・4年生。就職や将来計画で超多忙な時期だ。これから先は様々な分野に巣立ってしまう。みんなを集めて飲めるのはこの時期しかない！・・・

千葉総体から大阪総体、それぞれの道へ

インターハイは出場すること事態が奇跡・・・私からしたらそれくらいの価値がある。

その少ないチャンスを勝ち取って風のごとく走り抜けた2005年組。その輝きは鮮烈だった。そして2006年、大阪での大勝負へつながるのだが、あれからもう4年以上が経つ。みな大学の話を聞かせてもらった。みなそれぞれの4年間を送っていて、私も楽しみ

た。まるで親戚の甥たちと話しているようだった。

ただ現在の就職活動は熾烈を極める。教員であっても厳しい時代だ。2001年の時も大卒の3人に1人が職に就けなかったが、2009年はさらに辛辣な時代をむかえた様だ。もちろん彼らは堅実な進路を歩んでいるから心配は無いのだが、情報を整理して研究に余念がないようす。がんばれ。



なおきは2時間かけて通学し、実習に励んでいるという。とてもきついと思う。帰ってからのレポートも書くのだろうし、睡眠時間を削っていることだろう。おまけに陸上部の主将も務めている。私も学生時代を思い出す。なんとかやりぬいて欲しい。

後藤は日本選手権制覇の夢を現実のものとするため、更なる高みを目指す。

もはや後藤は世界陸上B標準記録。

もし日本代表入りすれば、今年はアジア大会、来年



は世界陸上韓国・大邱大会だ。
進路についてもいろいろ考えがあるので、当面は練習と、試合と、就活で忙しいだろう。

都合がつけば私の子供と関東インカレを見に行こうと思っている。



国立の大学院に進む高橋からは理科大陸上部の「徳永伝説」を聞き盛り上がった。
そして奥岡の怪物ぶりも楽しみだ。



彼らも大人になったなあとつくづく思った（泣） 写真は2006・3月
奥岡、徳永にも会いたい。10年後は彼らがOB会の中軸をなす世代なのだから。